

令和5年度

国語

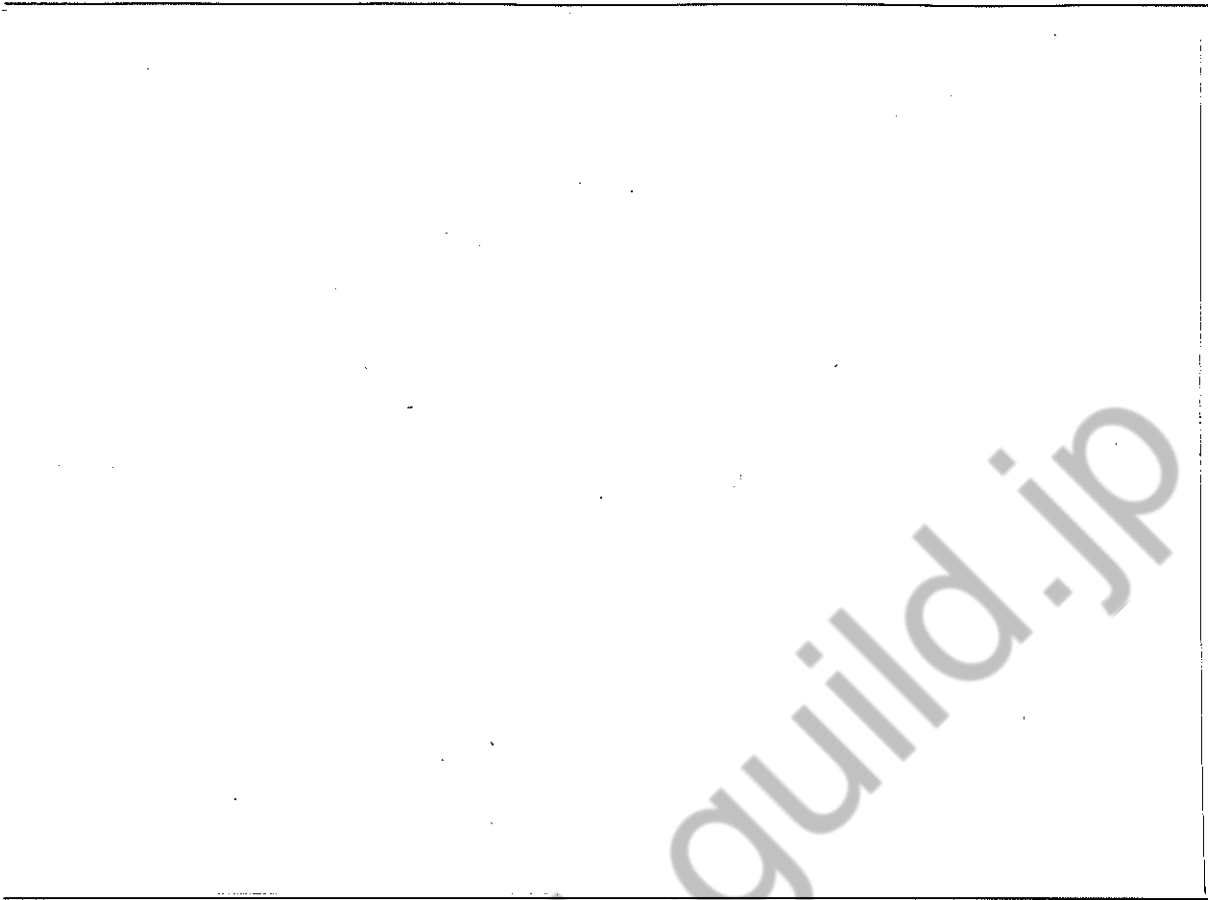
(解答はすべて解答欄に記入すること)

この試験問題は持ち帰ることができます。
なお、本問題で利用した著作物は、著作権法第36条により、
試験の目的上必要と認められる限度において複製したものです。
同目的以外の利用はできません。

(長野県教育委員会)

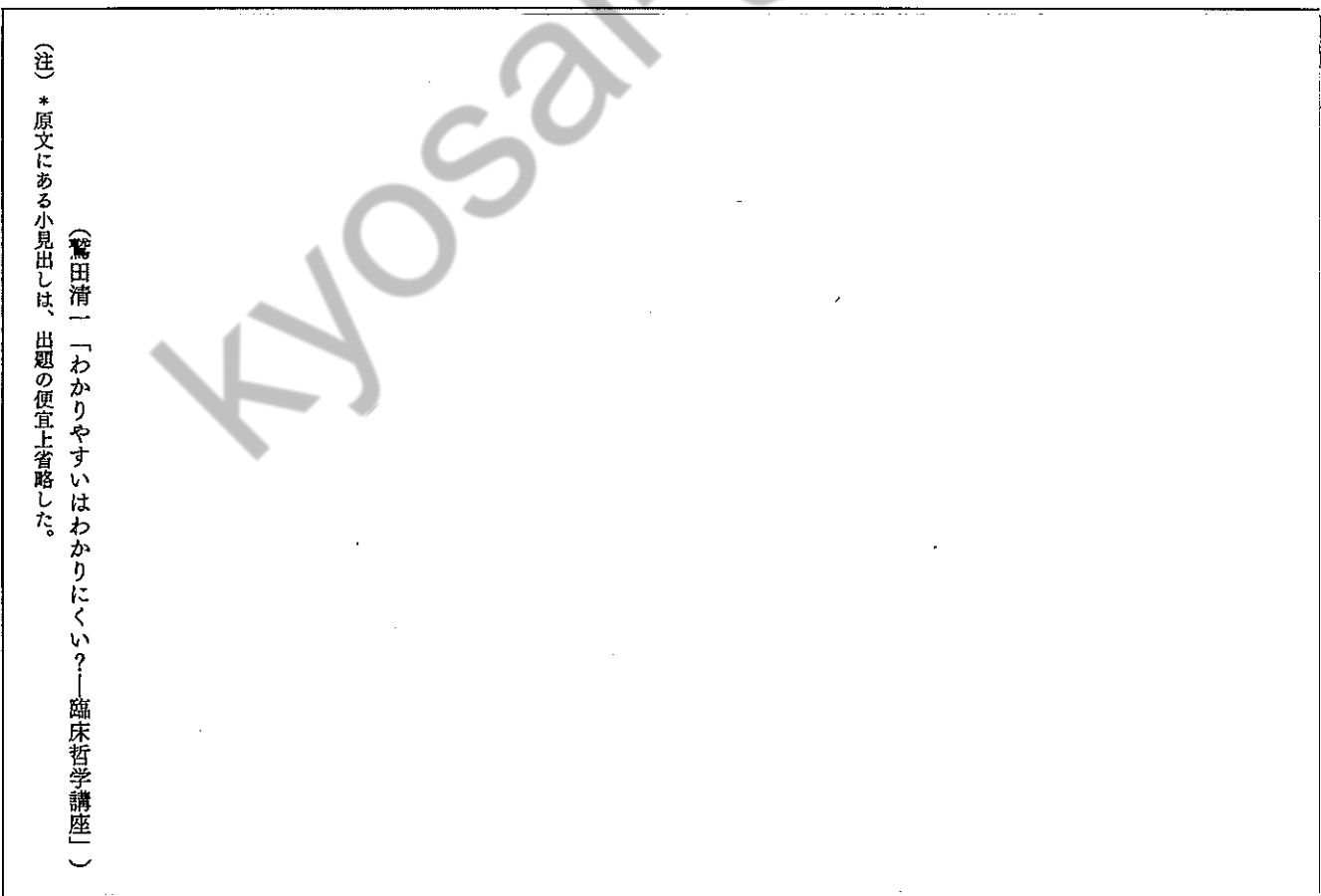
受験 番号						氏 名	
----------	--	--	--	--	--	--------	--

〔問一〕 次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。なお、段落のはじめの□と◎は形式段落の番号を示すために、出題の便宜上つけ加えた。



(注) *原文にある小見出しは、出題の便宜上省略した。

(鷲田清一「わかりやすいはわかりにくい?—臨床哲学講座」)



(一) 線部 a e について、漢字は読み方をひらがなで書きなさい。
また、カタカナは漢字に直し、楷書で書きなさい。

〔 a キンシツ b 緩急 c オモムキ d リジュン e 詮 〕

(二) 線部①「時間はそもそもそのように、未来から現在へと流れ来たり、現在から過去へと流れ去るもの」とは、時間をどのような視点からとらえているか。本文中から十九字で抜き出して書きなさい。

(三) 本文中の空欄 A と B に入る最も適切な言葉を、次のア～オから選び、それぞれ一つずつ記号で答えなさい。

〔ア 複雑化 イ 空間化 ウ 抽象化 エ 数量化 オ 体系化〕

(四) 次の文法の問いに答えなさい。

(i) 線部②「ずいぶん」は「異なる」を修飾しているが、品詞名は何か。また同じ品詞のものを、次のア～エからすべて選び、記号で答えなさい。

〔ア もつとも イ 貧しく ウ たぶん エ あらゆる〕

(ii) 空欄 あ に当てはまる接続語を、次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

〔ア ところで イ ただし ウ つまり エ また オ だから〕

(五) 線部③「おもしろいこと」とは、どのようなことか。本文中の言葉を使って六十文字以内で説明しなさい。

(六) 線部④「ネオマニーは、未知のものにもつとも近いフロント(先端)にいま自分があるという感覚を生きようとする」とは、どのような生き方ができることか。

「ができること。」につながるように、に当てはまる言葉を二十一字で探し、最初の五字を書き抜きなさい。

(七) 次の文は、どの段落の終わりにつながるのが最も適切か。段落番号を一つ書きなさい。

(八) 次の中から、本文の内容に当てはまらないものを次のア～オからすべて選び、記号で答えなさい。

ア これからやってくる先の時間のことを考えずに、自分がいまやるべきことを決めているのは、人生の「上り坂」にあるひとである。

イ アヴァンギャルドなひとたちは、現在を分水嶺として感じながら、強い「物語」を生きようとしてきた。

ウ 流行を追うひとたちは、未知のものにもつとも近いフロントに自分がいるという感覚を生きようとしている。

エ いま何が終わり、別の何かが始まるという思いを貫いていたひとたちは、「いま」という時間を大事にしようと思いつめているようである。

オ ひとは企業プロジェクトを開始するときに、前方ばかりを向き、時の流れの上流をしかと見つめながら、トレンドを掴もうとしている。

〔問二〕 次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。なお、設問の都合上、表記を改めた部分、訓点を省いた部分がある。

(「伝習録」新釈漢文大系)

(一) 線部①「二友擧」とあるが、その内容にあたる部分を文章中からさがし、最初と最後の三字を書きなさい。(句読点は除く)

(二) 線部②「手指有見有不見」は、「手指は見ゆる有り見えざる有り」と読む。この読みに従って、白文に返り点と送り仮名をつけなさい。(送り仮名は、カタカナで書くこと)

(三) 本文中の A に当てはまる適切な言葉を本文中から二字で抜き出して書きなさい。

(四) 線部③「不在不親不聞上著實用功」を書き下し文にしなさい。

(五) 本文中の B に当てはまる置き字として、最も適切なものを次のア、イ、ウ、エ、オから一つ選び、記号で答えなさい。

〔ア〕 於　　イ 乎　　ウ 而　　エ 矣　　オ 于

(六) — 線部④「豈以外者之聞見爲累哉」が述べている意味として、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 良知が自然に発現するほど成熟してくると、見聞できるものが、良知の妨げになってくる。

イ 良知が自然に発現するほど成熟してくると、見聞できないものが、良知の妨げになってくる。

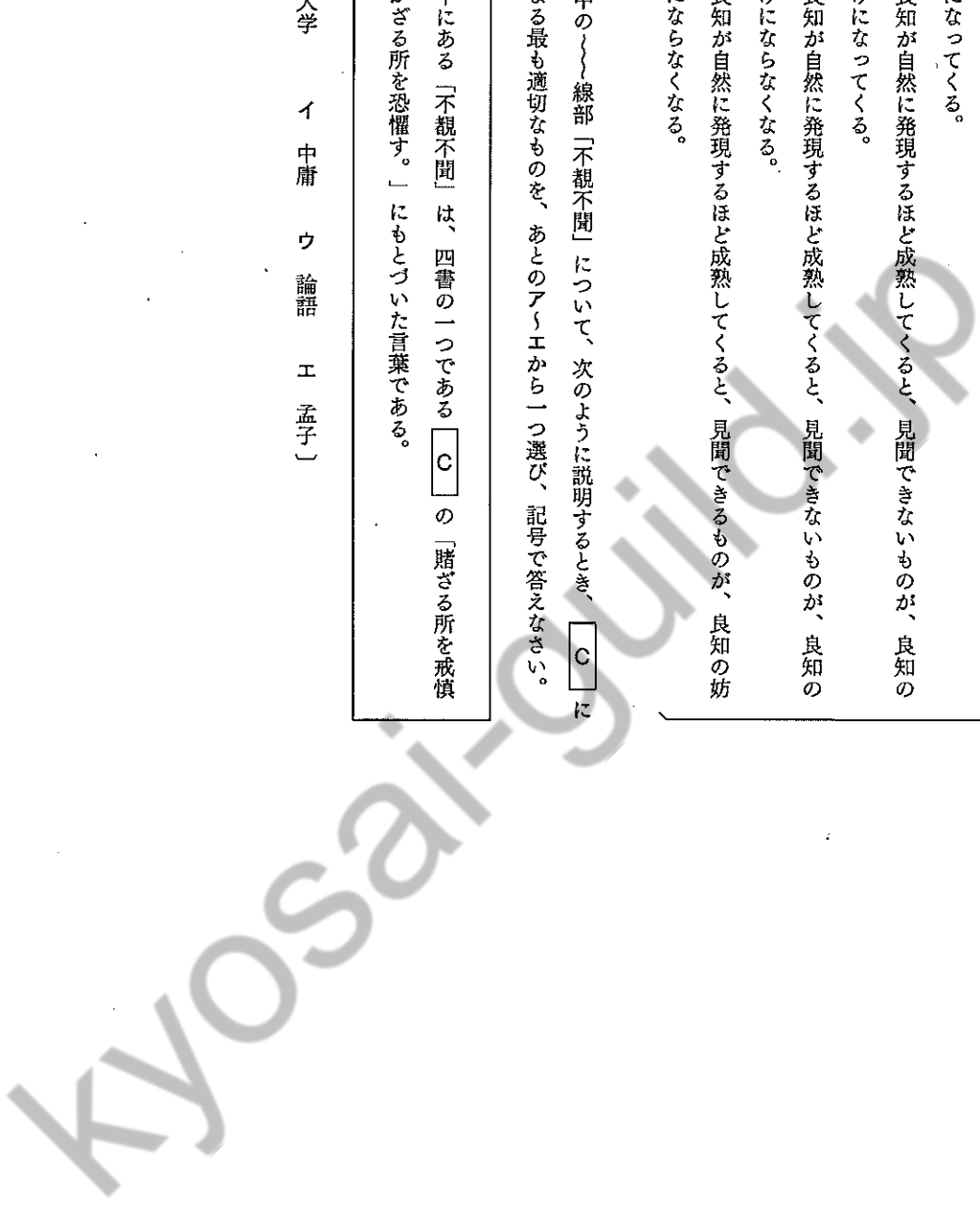
ウ 良知が自然に発現するほど成熟してくると、見聞できないものが、良知の妨げにならなくなる。

エ 良知が自然に発現するほど成熟してくると、見聞できるものが、良知の妨げにならなくなる。

(七) 文章中の〓線部「不親不聞」について、次のように説明するとき、〓に当てはまる最も適切なものを、あとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

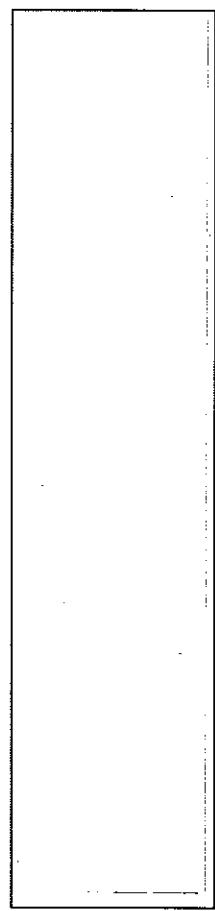
本文中にある「不親不聞」は、四書の一つである〓の「賭ざる所を戒慎し、聞かざる所を恐懼す。」にもとづいた言葉である。

- 〔ア 大学 イ 中庸 ウ 論語 エ 孟子〕



〔問三〕 次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。なお、設問の都合上、一部表記を改めた部分がある。

(沙石集「新編日本古典文学全集」)



(一) 線部 a・b の言葉の意味として、最も適切なものをそれぞれ次のア・ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- a 狂はしたうな
- ア 世迷いごとを申されるな イ 道理を違えてはならぬ
- ウ 忠孝の道を外れるな

b あさましく

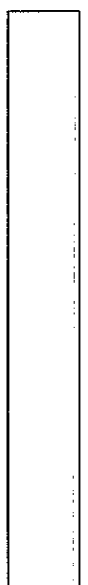
ア いじきたない イ 驚き、あきれる ウ 人の気持ちを考えない

(二) 線部①「賢げにて殊に嗚呼がましくぞおぼゆる」とあるが、筆者はどのように思ったか、その理由を説明しなさい。

(三) 線部②「遮」の読み方について、次のア～オの中から当てはまるものを選び、記号で答えなさい。

- ア おく イ のが ウ いは エ かく オ こは

(四) 本文中には次の一文が入る箇所がある。この一文の直後の三字を、本文中から書き抜きなさい。



(五) — 線部③「心あらん人」の意味について、次のア、イ、エの中から当てはまるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア いつくしみあわれむことができる人
- イ 困難にくじけない強い意志がある人
- ウ 注意深く心を働かせることができる人
- エ 普段の学習によって身に付けた技能や知識がある人

(六) ここに登場する四人の上人はどうすればよかったと筆者は考えているか。簡潔に書きなさい。

(七) — 線部④「道業」とあるが、ここでは何を指しているといえるか。当てはまる部分を本文中から、十八字で書き抜きなさい。

(八) 「沙石集」より前の時代に書かれた作品はどれか。次のア、イ、エの中から当てはまるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- 〔ア 太平記 イ 風姿花伝 ウ 雨月物語 エ 大鏡〕

Kyosai-guild.jp

〔問四〕 「中学校学習指導要領（平成二十九年三月） 第2章各教科 第1節国語」に

即して次の問いに答えなさい。

(一) 次の文章は各学年の目標のうち「学びに向かう力、人間性等」に関する目標である。空欄 A ～ C に入る適切な語句を、語群ア～ウからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

「学びに向かう力、人間性等」

第1学年 (3) 言葉がもつ価値に A とともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

第2学年 (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を B、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

第3学年 (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に C、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

- | | | | |
|---|-----------|----------|-----------|
| A | ア 関心をもつ | イ 根拠を求める | ウ 気付く |
| B | ア 意識的に継続し | イ 生活に役立て | ウ 生活習慣として |
| C | ア 関わり | イ 理解を深め | ウ 誇りを持ち |

(二) 次の文章は第1学年から第3学年までの「思考力、判断力、表現力等」の「A 話すこと・聞くこと」に示された言語活動例の一部である。空欄 D E F に入る適切な語句を次の①～③からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。また空欄 G H I に入る適切な語句をそれぞれ書きなさい。

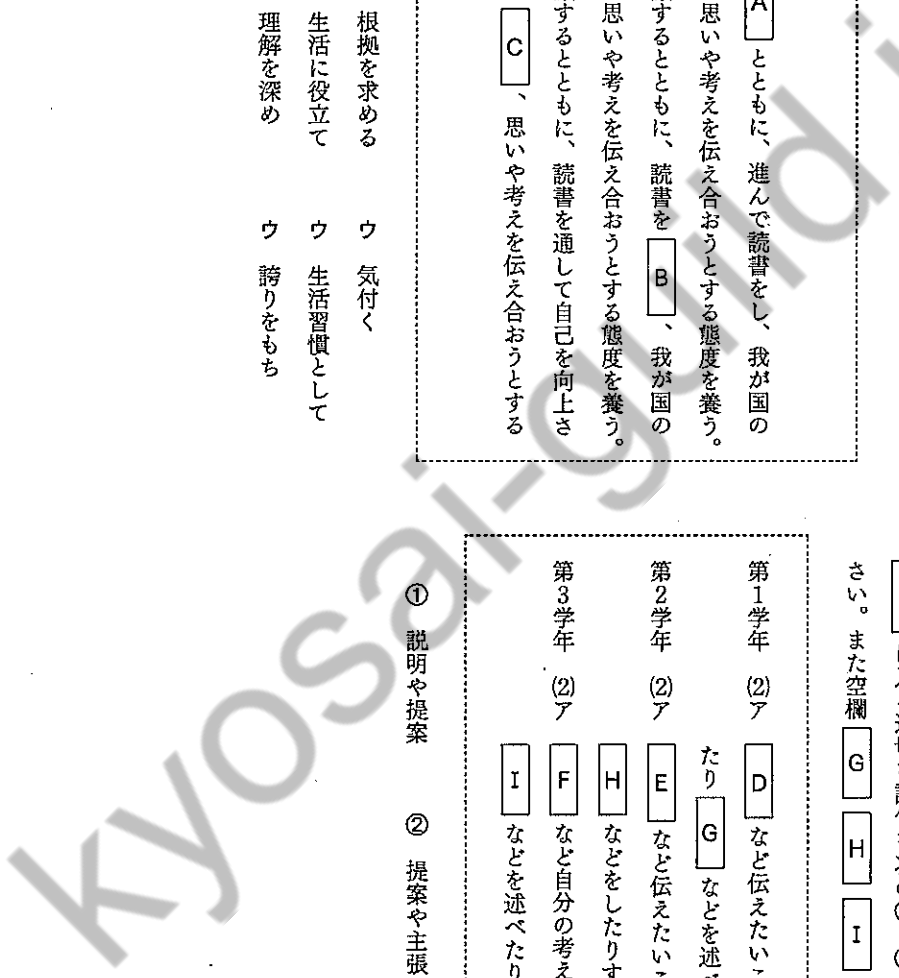
第1学年 (2)ア D など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり

第2学年 (2)ア G など述べたりする活動。

第3学年 (2)ア F など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり

I など述べたりする活動。

- ① 説明や提案 ② 提案や主張 ③ 紹介や報告



受験番号

名前

得点

問一 三十五点 (一)二点×5 (二)完答三点 (三)二点×2 (四)(i)完答二点 (ii)二点 (五)四点 (六)完答三点 (七)三点 (八)完答四点

(一)	a		均質	b	かんきゆう		c	趣	d	利潤		e	せん	
	時間				よう					か				
(二)	が		の	に		体験		され		いと		う		
(三)	A			B		イ		オ		ウ		エ		
(四)	i		副詞		アウ		(完答) ii		オ		イ		エ	
(五)(例)	企	業	プ	ロ	ジ	エ	ク	ト	を	開	始	す	る	と
(六)	未	来	の	関	(完答)		「	「	「	「	「	「	「	「
(七)	7		(完答)		ア		エ		ウ		イ		エ	

問二 二十点 (一)完答三点 (二)完答二点 (三)~(七)各三点 うち(三)は完答

(一)	佛	家	以	く	義	未	明	(完答)
(二)	手指		有	見	有	不	見	(完答)
(三)	見	性	(完答)		観		聞	
(四)	ウ		(六)		(七)		イ	

問三 二十四点 (一)一点×2 (二)四点 (三)~(五)各二点 うち(四)は完答 (六)~(八)各四点 うち(七)は完答

(一)	a	ア		b	イ													
(二)(例)	上座の老僧が、人のしていることばかりが気になって、自分の行いがおろそかになっていることに気付かず、達観していることを口にかけているから。	イ		(四)	さ	れば (完答)												
(三)	イ	ウ		エ		イ												
(四)	人のある探しをするのではなく、自分の行為をふりかえり、見つめ直せばよかつたと考えていた。	イ		エ		イ												
(五)	ウ	エ		イ		エ												
(六)	人のあら探しをするのではなく、自分の行為をふりかえり、見つめ直せばよかつたと考えていた。	イ		エ		イ												
(七)	真	如	の	離	言	を	観	じ	、	浄	名	の	杜	口	を	学	ば	ん
(八)	エ		イ		エ		イ		エ		イ		エ					

問四 二十一点 (一)三点×3 (二)二点×6

(一)	A	ウ	B	イ	C	ア
(二)	G	D	③	H	E	①
(三)	I	F	②	J	K	④
(四)	意見	助言	評価	見聞	道義	徳業